

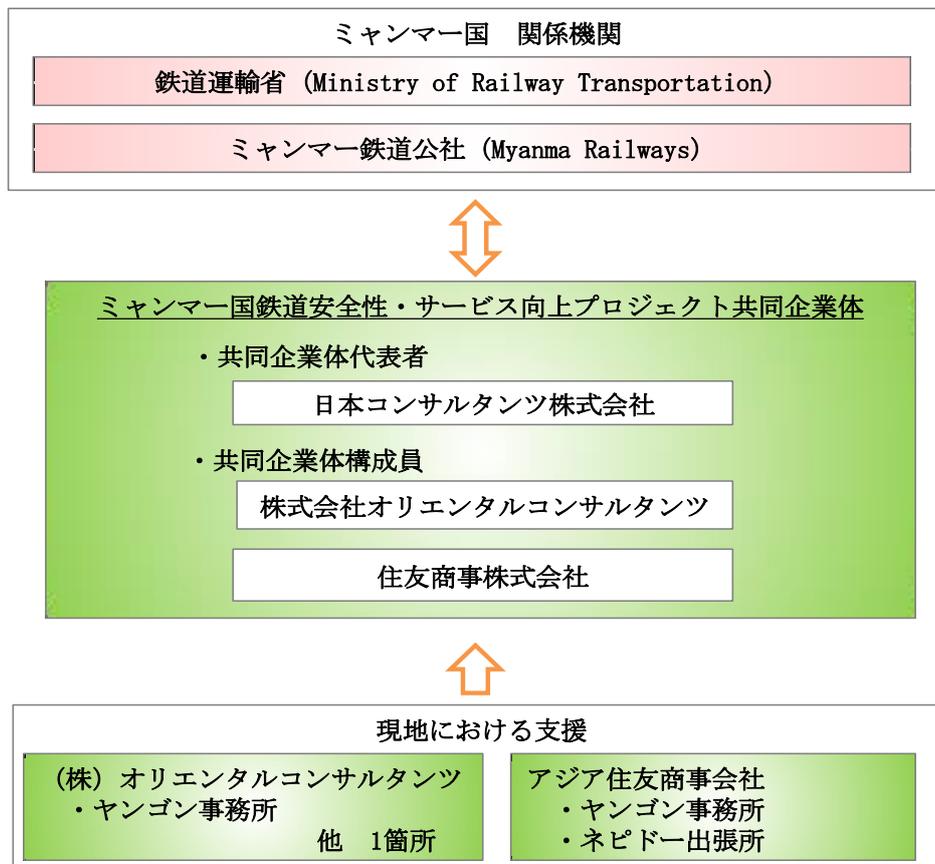
独立行政法人国際協力機構「ミャンマー国鉄道安全性・サービス向上プロジェクト」の受注について

日本コンサルタンツ株式会社
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
住友商事株式会社

日本コンサルタンツ株式会社（本社：東京都千代田区 以下「JIC」）、株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区 以下「OC」）、住友商事株式会社（本社：東京都中央区 以下「住友商事」）は、このたび共同で、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」）が行う「ミャンマー国鉄道安全性・サービス向上プロジェクト」（平成25年4月3日付け公示）を受注し、同機構と契約を締結しました。本プロジェクトは、ミャンマーの民主化後、具体的な形として行われる鉄道セクターでの最初の協力事業になります。

ミャンマー国では、線路の整備不良などにより年間650件を超える脱線や衝突などの事故が発生しています。そこで今回、JIC、OC及び住友商事が共同企業体として、必要な資機材の供与、保線作業訓練、セミナーや本邦実施研修といった技術協力を通して、ミャンマー国の線路の維持管理能力を向上する取組みを実施します。なお、この取組みは、ヤンゴン・バゴー間に設ける20km程度のパイロット区間で行うこととしています。同時に鉄道施設・車両・電気などの実態調査と改善への提言なども行います。

本プロジェクトの実施体制は次の通りです。



<参考>

「ミャンマー国鉄道安全性・サービス向上プロジェクト」の概要

1. 業務対象地域

ヤンゴン（人口 700 万人）近郊のヤンゴン - バゴー間（74.8 km）

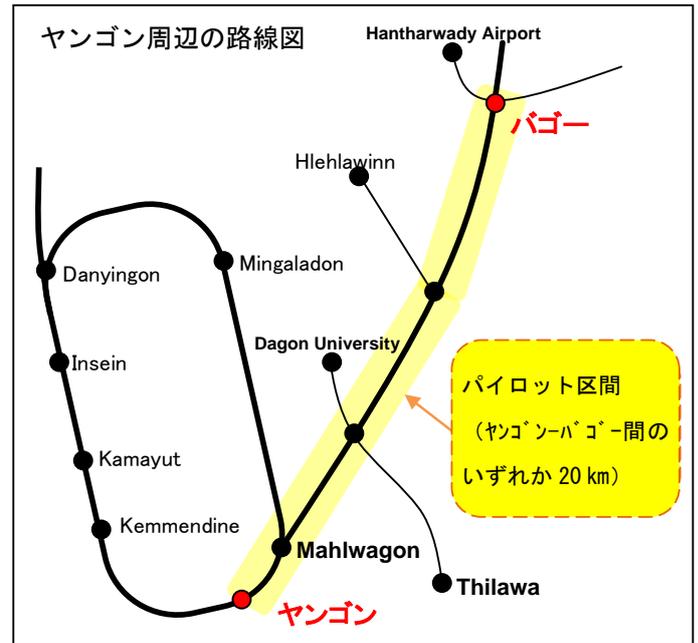
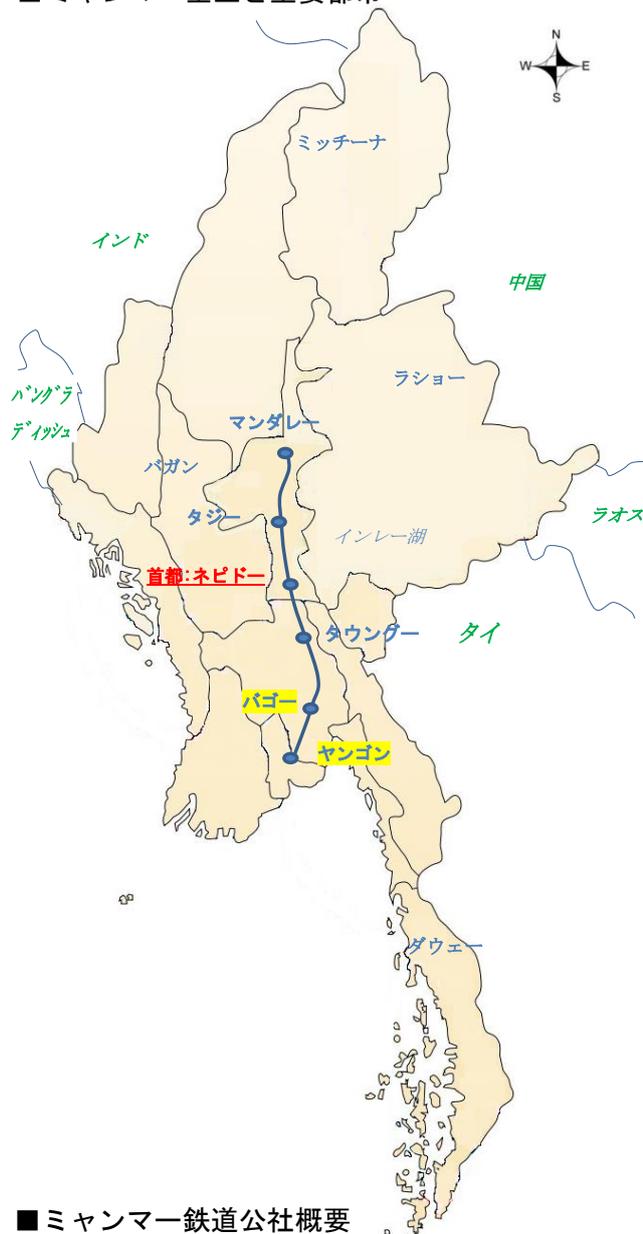
パイロット区間（保線技術のOJT実施区間）はヤンゴン - バゴー間のうち 20 km程度を想定

2. 業務内容

以下の活動を通じて、ヤンゴン付近において、早急に保線技術の向上に資する支援を行い、運営・維持管理に係る課題を整理することで、鉄道の安全及びサービス向上に努めます。

- ・ 必要な資機材の供与、保線作業訓練、セミナーや本邦実施研修を通じた保線技術向上支援
- ・ 鉄道施設、車両、電気などの現況調査及び事故分析に基づいた鉄道改善項目の整理

■ ミャンマー全土と主要都市



線路の整備不良

- ・ 波打つレール
- ・ 道床（砂利）の不足

■ ミャンマー鉄道公社概要

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| ・ 路線延長：5,876 km 複線化率：約 12% | ・ 職員数：22,199 人 利用者数：約 18 万人/日 |
| ・ 路線数：37 路線 全線非電化 | ・ 主要路線：ヤンゴン～マンダレー線、ヤンゴン環状線 |
| ・ 1日の列車本数：455 本（うち貨物 29 本） | |
| ・ 車両数：機関車 431 両、気動車 189 両 | |
| 客車 1,277 両、貨車 3,236 両 | |